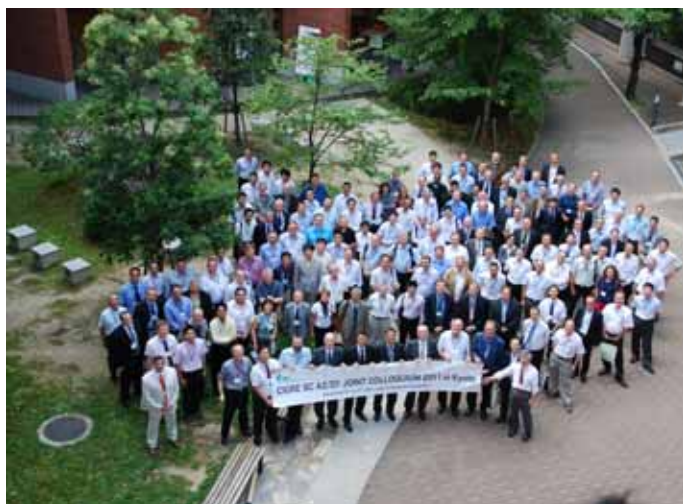


## CIGRE SC A2(変圧器)/D1(電力用材料と先進試験技術)合同京都大会 大会概要報告書

### 1, はじめに

京都市・同志社大学にて, 2011 年 9 月 11 日(日)-16 日(金)の期間で, CIGRE SC A2 (変圧器) と SC D1 (材料および先進試験技術)の合同京都大会が開催された。

SC A2 は, 日本開催の強い招致活動および日本 CIGRE 国内委員会委員長の招待状送付などもあり 2006 年の定例会議にて, 2011 年の日本開催を決定した。SC D1 も日本招致活動が実り, 2008 年の定例会議にて 2011 年の日本開催を決定した。日本では, SC D1 の招致活動開始から SC A2 と SC D1 の合同大会開催を想定して活動しており, SC D1 の日本開催決定と同時に SC A2/D1 合同大会が決定した。



大会参加者の集合写真

本大会開催に当っては, 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により, 日本での開催が懸念された時期も有ったが, CIGRE 本部側の開催支援および日本側の強い要望と実行力により開催に漕ぎ着け, 大会には 200 名以上の参加を頂いて, 盛況に開催することができた。特に懸念された海外からの参加では, 世界各地の 35 ヶ国から参加を頂き, 参加者の内海外からの参加者の方が約 70% を占め, 大会運営でも非常に高い評価を受けて, 本大会の意義を更に高めて頂いた。

### 2, 大会スケジュール

本大会は, 合同コロキウム(オーラルセッション, ポスターセッションおよびワークショップ), 各国代表メンバーによる SC 定例会議, AG/WG/TF 会議, テクニカルツアーおよび晩餐会などの関連イベントで構成され, 以下の表に示すスケジュールで開催された。なお, AG/WG/TF 会議は, 約 30 件の会議が開催され, 大会期間の前後も含めて開催された。

大会概略スケジュール

日 時	プログラム	イベント関係
9 月 11 日(日)	大会受付開始	歓迎会
9 月 12 日(月)	オーラルセッション	
9 月 13 日(火)		バンケット
9 月 14 日(水)	ポスターセッション ワークショップ	同伴者ツアー
9 月 15 日(木)	SC 定例会議	JNC 晩餐会
9 月 16 日(金)	テクニカルツアー	

### 3, 合同コロキウム

大会は、同志社大学・新町キャンパス・臨光館を主会場に、歓迎会やWG会議等では近接した室町キャンパス・寒梅館、今出川キャンパスの一部などを借りて開催された。

#### (1) オーラルおよびポスターセッション

本大会に選択された3件の優先議題に対し、世界中から82件の論文が採択され、最初の2日間のオーラルセッションで47件、3日目のポスターセッションに35件の論文が投稿された。本大会の優先議題を以下に示す。

優先議題 1 (PS 1) : 変圧器の保守, モニタリング, 診断および関連する試験

優先議題 2 (PS 2) : 材料

優先議題 3 (PS 3) : 過渡現象と試験

注) 各優先議題には、補足の具体的各項目が示された(記載は省略)。

最初の2日間のオーラルセッションには47件の論文が投稿された。PS 1では、3件の中で最も多い27件の論文において、モニタリング、リスクマネジメント、診断などを含めた最新の保守・診断技術に関する報告と討議が行なわれた。PS 2では、13件の論文において、鉱油の代替的新絶縁油に関する開発、油/絶縁紙の絶縁構成に関する研究などが報告・討議された。PS 3では、11件の論文において、VFT、熱挙動などが報告・討議された。大会会場では、3件全ての優先議題について、活発な討議が行なわれた。

大会3日目には、ワークショップの前・後半の間に、昼食の時間を含めたポスターセッションが開催され、会場に掲示された35件の論文のポスターを前に活発な質疑と討論が繰り広げられていた。

#### (2) ワークショップ

大会3日目には、ポスターセッションを挟んだ前・後半の構成でワークショップが開催された。SC A2およびSC D1からそれぞれ最新の課題に即したテーマが選定され、テーマ毎に基調講演と質疑応答を実施し、活発な討議が行なわれた。ワークショップの演題を以下に示す。

- ・ 変圧器の最新保守ガイドンス
- ・ 変圧器用新絶縁液の開発と適用実績
- ・ 絶縁性応答による変圧器絶縁の水分評価
- ・ 絶縁液の参加安定性

### 4, SC 定例会議

大会4日目には、SC A2およびSC D1それぞれの定例会議が開催され、SCの活動状況報告、優先課題や今後の活動方針などが審議された(詳細内容は総会報告書参照)。



同志社大・新町キャンパス・臨光館



合同コロキウム(オーラルセッションの質疑)

## 5, 大会イベント

大会参加者の歓迎と本大会を盛上げるため、各種イベントが開催された。大会開始の前日の夜には Welcome party, 大会 2 日目のオーラルセッション終了後には参加者と関係者全員が参加したバンケット, 大会 3 日目に平行して実施された同伴者ツアー, 大会 4 日目の SC 会議終了後には, 本部委員長や各国代表者, コンペナを招待した JNC Welcome Dinner, そして大会最終日の 5 日目にはテクニカルツアーが実施された。各イベントの概要を以下に示す。

### (1) Welcome party (歓迎会)

大会前日の 9 月 11 日 (日) 午後に大会受付を開始し, 受付会場である室町キャンパス・寒梅館の「アマーク・ド・パラディ」にて, その夜 17:30 から 20:30 にて開催した。美味しい食事と会話を滑らかにするアルコールで, 終了時間を過ぎてても歓迎会会場を去るのを惜しむ方も多く, 大会はスタートから盛り上がりを見せた。

### (2) バンケット

2 日間に渡るオーラルセッションが終了した 13 日に, 京都市・ホテルオークラの宴会場にて, 大会参加者および関係者全員のバンケットを開催した。CIGRE SC A2 本部委員長および SC D1 本部委員長の挨拶でスタートし, 本部委員長他主要メンバーが壇上に上がっての「鏡割り」および枡酒での乾杯では大きな声援が起こった。その後はジャズの演奏を楽しみながら談笑が行なわれ, バンケットの締め挨拶では, 前 SC D1 委員長の飛び入りの謝辞などが有り, オーラルセッションが無事終了した事もあって, 参加者の懇親が更に深まるイベントになった。

### (3) JNC Welcome Party (JNC 晩餐会)

大会 4 日目の SC 定例会議終了後に, 本部委員長, レギュラーメンバー, AG/WG コンペナを招待した JNC Welcome Dinner が, ウェスティン都ホテル京都で開催された。JNC 委員長の歓迎挨拶, 大会会場を提供頂いた同志社大学学長挨拶, および本部委員長を代表しての SC A2 本部委員長の挨拶と乾杯で開幕し, 余興の芸舞に続いての芸者さん, 舞妓さんとの記念撮影では海外からの出席者が挙ってカメラを片手に舞妓さんの周りに集まり, 記念となる写真を撮影していた。晩餐会は JNC 副委員長の挨拶, SC D1 本部委員長の謝辞で締めくくられた。



バンケット(鏡割りと乾杯)



舞妓さんを挟んだ本部委員長(A2, D1)

### (4) 同伴者ツアー

同伴者ツアーは, 生花体験を主体にしたものと, 書道体験を主体にしたものの 2 つのコースが設定され, 大会 3 日目の 14 日に行なわれた。生花は末生流の教室で行なわれ, 初めての体験者が多い中,



真剣に生花を習う姿が見られた。また、書道は退蔵院で行われ、こちらも初めての体験者ばかりであったが、苦勞しながら毛筆を操る姿が見られた、両コースとも各会場内の庭園の見学や、その後の金閣寺の見学などが組み込まれ、貴重な体験に満足された顔が多かった。

#### (5) テクニカルツアー

テクニカルツアーは大会最終日の 16 日に行なわれ、日本最古の商業用発電所としてスタートした蹴上発電所の記念館や、その発電所に水を供給した琵琶湖疎水、この高度差対策として設置されたインクライン、また南禅寺境内の水路閣など午前中の見学に加え、午後は一路比叡山に移動して延暦寺の見学を行なった。延暦寺の見学途中で山の天気会い、残念ながら雨天での見学となったが、根本中堂内での僧侶からの説明では、参加者全員が「油断」の意味に聞き入っていた。



同伴者ツアー：末生流での生花体験



テクニカルツアー（根本中堂前）

## 6, おわりに

大会開催を前にして、日本は東日本大震災に襲われ、大会開催も危ぶまれる中、CIGRE 本部側の開催支援、また国内では JNC、大会開催委員会である組織委員会とそれに属した論文企画委員会と実行委員会のメンバー、そして大会の進行を支えてくれた参加企業からのスタッフの皆様の絶大な力で大会を無事開催することができました。

また、CIGRE SC A2/D1 合同京都大会は、世界の 35 ヶ国から 200 名以上の方に参加頂き、海外からの参加者が全体の約 70%となる国際大会とすることができました。

大会では、大会参加者、JNC、開催委員会メンバーおよび大会支援スタッフ全ての方の協力と支援により、万全の準備と滑らかな進行により、非常に高い評価を頂いた大会になりました。ここで皆様に改めて御礼を申し上げて、締めくくりの言葉とさせていただきます。

大会組織委員長 白坂 行康（SC A2:日本 AE パワー）記